石川県学校保健統計

（学校保健統計調査結果）

令 和 ６ 年 度

石川県総務部

はじめに

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としており、統計法に基づく基幹統計調査として文部科学省が昭和２３年以降毎年実施しているものです。

この報告書は、令和6年度に実施した「学校保健統計調査」の結果をまとめたものであり、学校保健行政推進の一助として、広く関係各方面において活用していただければ幸いです。

なお、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました調査実施校、関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜わりますようお願いします。

令和７年２月

石川県総務部長　　光　永　祐　子

目　　次

調査の概要 ・・ 1

調査結果の概要 ・・ 3

Ⅰ　発育状態 ・・ 3

1　身長 ・・ 3

2　体重 ・・ 4

3　平均体格 ・・ 5

4　世代間比較　30年前（平成６年度）の体格との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

5　発育量の世代間比較　30年前（平成６年度）との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅱ　健康状態 ・・ 9

1　疾病･異常の被患率等別状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

2　主な疾病･異常等の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Ⅲ　全国値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

1　発育状態 ・・ 13

(1) 全国平均体格との差 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(2) 総発育量の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(3) 17歳（高校３年生）の身長の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

2　健康状態 ・・ 17

○　主な疾病・異常等の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

(1)「むし歯（う歯）」の者の割合の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

(2)「裸眼視力1.0未満の者」の割合の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・ 17

統　計　表

別表1　年齢別、男女別体格の平均値及び標準偏差（全国、石川県） ・・・・・・・・・ 20

別表2　年次別、年齢別、男女別身体計測値の推移（全国、石川県） ・・・・・・・・・ 22

別表3　学校種類別、男女別疾病・異常被患率等（全国、石川県） ・・・・・・・・・・ 24

別表4　主な疾病・異常等の推移（全国、石川県） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

別表5　年次別、男女別発育量の推移（石川県） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

付　属　資　料

都道府県別　身長・体重の平均値及び標準偏差・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

調 査 の 概 要

1　調査の目的

この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2　調査の範囲・対象

（1）　調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）である。

（2）　調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳から17歳(令和6年4月1日現在）までの幼児、児童及び生徒の一部である。

区　分	学校総数（校）	調査実施校　数（校）	調査対象者数（人）	
			発育状態	健康状態
総　数	562	151	12,831	65,155
幼 稚 園	212	31	968	1,014
小 学 校	201	58	5,396	26,445
義務教育学校	3	—	—	—
中 学 校	90	37	4,220	17,277
高等学校	56	25	2,247	20,419

(注)1　発育状態の調査は、調査実施校に在籍する幼児、児童及び生徒のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、健康状態の調査は、調査実施校の在学者全員を対象としている。
2　幼稚園には、幼保連携型認定こども園を含む。
3　小学校の調査実施校数及び調査対象者数には、義務教育学校の第1～6学年を含む。
4　中学校の調査実施校数及び調査対象者数には、義務教育学校の第7～9学年を含む。

3　調査事項

（1）　児童等の発育状態（身長、体重）

（2）　児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病・異常の有無、結核の有無及び結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無）

区　分	幼稚園	小　学　校						中 学 校			高 等 学 校		
	5歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
聴　力　検　査	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	○	－	○
結核に関する検診	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
結　核　検　査	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
心　電　図　検　査	－	○	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－
尿　糖　検　査	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
永久歯のむし歯（う歯）等数	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－
上記以外の検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（注）　○印は調査対象年齢である。

4　調査の周期・期日

（1）　周期：昭和23年度から毎年実施。

（2）　学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、令和6年4月1日から6月30日の間に実施。

５　利用上の注意

（1）　統計表の記号の用法は、次のとおりである。

「－」：　計数がない場合

「…」：　調査対象とならなかった場合、未公表の場合

「△」：　負数（減少）の場合

「0.0」「0.00」：計数が単位未満の場合

「X」：疾病・異常被患率等の標準誤差5以上、受検者が100人（5歳は50人）未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.0％のため統計数値を公表しない場合

（2）　健康状態調査については、平成18年度から調査対象校の全在学者を対象に調査を実施している。

（3）　全国の数値は「文部科学省確報」による。ただし、文部科学省から訂正数値の公表があったときは、文部科学省の公表数値を確定値とする。

なお、令和4年度調査から、確報と速報の一元化を行っている。

調 査 結 果 の 概 要

※令和２年度から令和５年度の調査結果については、新型コロナウイルス感染症の影響により測定時期を異にしたデータが含まれた結果であることから、今回の調査結果と単純比較することはできない。

Ⅰ 発育状態

１ 身長 （表1、図1）

（1） 令和6年度の男子の身長は、6歳で前年度と同値、8歳、10歳、11歳及び13歳から15歳で前年度より高くなっている。また、5歳、7歳、9歳、12歳、16歳及び17歳で前年度より低くなっている。

女子の身長は、10及び11歳で前年度と同値、13歳から15歳で前年度より高くなっている。また、5歳から9歳、12歳、16歳及び17歳で前年度より低くなっている。

（2） 令和6年度の身長を親の世代（30年前の平成6年度の数値）と比較すると、最も差がある年齢は、男子では13歳で2.4cm高く、女子では16歳で0.9cm低くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値

単位：cm

区分		男子					女子				
		令和6年度 A	令和5年度 B	前年度差 A－B	平成6年度 C（親の世代）	世代間差 A－C	令和6年度 A	令和5年度 B	前年度差 A－B	平成6年度 C（親の世代）	世代間差 A－C
幼稚園	5歳	111.0	111.9	△0.9	111.1	△0.1	110.3	110.7	△0.4	109.9	0.4
小学校	6歳	117.3	117.3	－	117.3	－	116.0	116.3	△0.3	116.5	△0.5
	7歳	123.2	123.4	△0.2	122.9	0.3	122.0	122.5	△0.5	122.6	△0.6
	8歳	129.5	129.1	0.4	128.7	0.8	127.8	128.2	△0.4	128.1	△0.3
	9歳	133.6	134.2	△0.6	134.1	△0.5	133.9	134.2	△0.3	134.1	△0.2
	10歳	140.3	139.5	0.8	139.7	0.6	141.3	141.3	－	140.9	0.4
	11歳	146.8	146.6	0.2	145.4	1.4	148.2	148.2	－	147.8	0.4
中学校	12歳	154.1	154.4	△0.3	152.3	1.8	152.7	152.8	△0.1	152.5	0.2
	13歳	162.3	161.8	0.5	159.9	2.4	155.8	155.5	0.3	155.9	△0.1
	14歳	167.1	166.2	0.9	166.4	0.7	157.4	157.1	0.3	157.2	0.2
高等学校	15歳	169.4	169.1	0.3	169.0	0.4	157.7	157.6	0.1	158.1	△0.4
	16歳	170.3	170.5	△0.2	170.7	△0.4	157.5	158.0	△0.5	158.4	△0.9
	17歳	171.0	171.5	△0.5	171.3	△0.3	158.7	158.9	△0.2	158.3	0.4

（注） 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表について同じ。

図1 身長の平均値の推移（1－1）

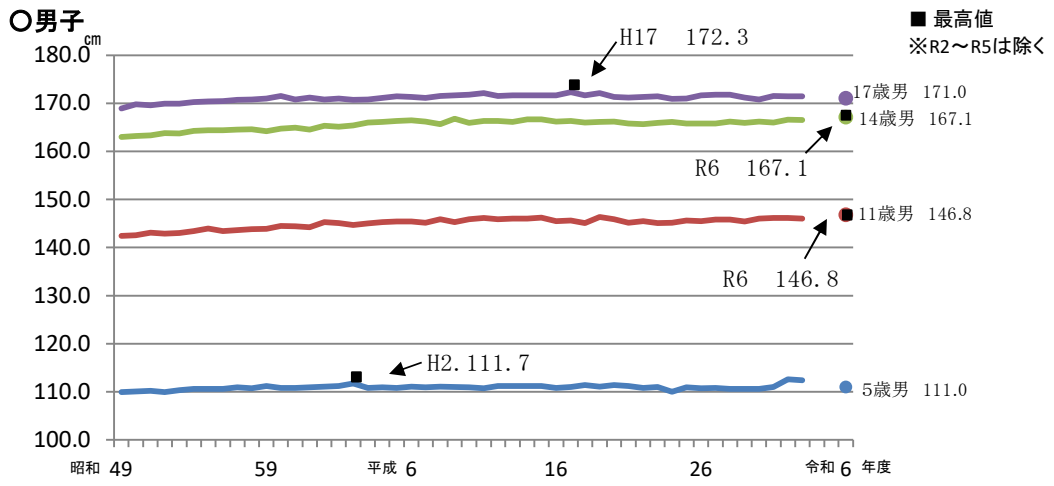
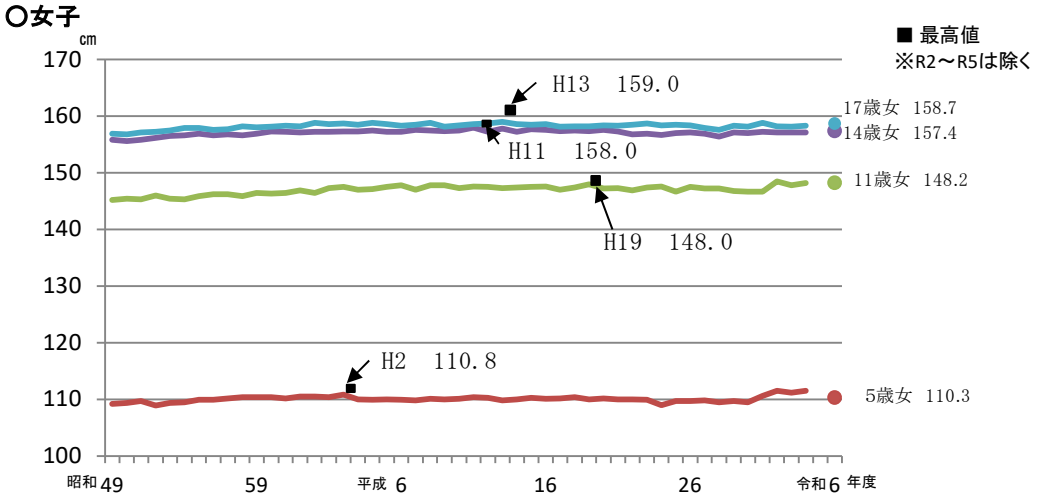


図1　身長の平均値の推移（1－2）



2　体重　（表2、図2）

（1）　令和6年度の男子の体重は、10歳、11歳及び14歳で前年度より増加している。また、5歳から9歳、12歳、13歳及び15歳から17歳で前年度より減少している。

女子の体重は、10歳、14歳、15歳及び17歳で前年度より増加している。また、5歳から9歳、11歳か13歳及び16歳で前年度より減少している。

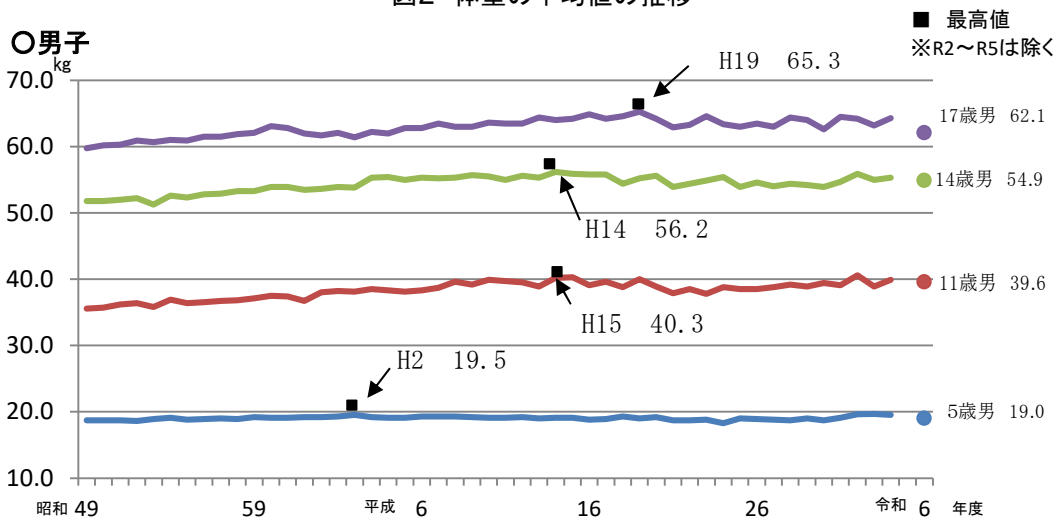
（2）　令和6年度の体重を親の世代（30年前の平成6年度の数値）と比較すると、最も差がある年齢は、男子では13歳で1.8kg重くなっており、女子では16歳で1.7kg軽くなっている。

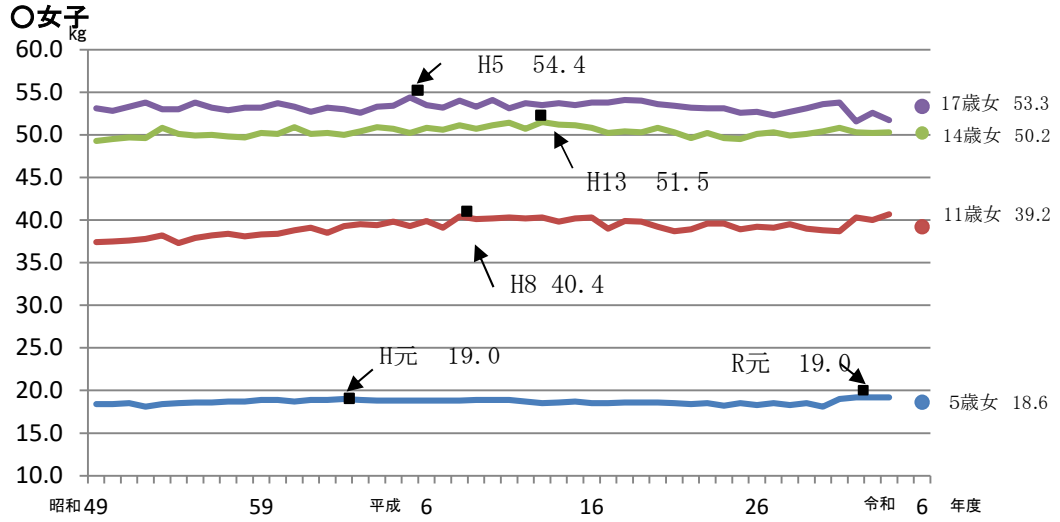
表2　年齢別　体重の平均値

単位：kg

区分		男子					女子				
		令和6年度 A	令和5年度 B	前年度差 A－B	平成6年度 C（親の世代）	世代間差 A－C	令和6年度 A	令和5年度 B	前年度差 A－B	平成6年度 C（親の世代）	世代間差 A－C
幼稚園	5歳	19.0	19.4	△0.4	19.3	△0.3	18.6	18.8	△0.2	18.8	△0.2
小学校	6歳	21.7	21.9	△0.2	21.7	－	20.6	21.1	△0.5	21.3	△0.7
	7歳	24.4	24.5	△0.1	24.4	－	23.6	23.7	△0.1	24.0	△0.4
	8歳	27.7	28.1	△0.4	27.4	0.3	26.4	27.3	△0.9	26.8	△0.4
	9歳	31.0	31.3	△0.3	31.0	－	30.1	30.8	△0.7	30.8	△0.7
	10歳	35.8	35.2	0.6	34.8	1.0	34.4	34.3	0.1	35.0	△0.6
	11歳	39.6	39.5	0.1	38.3	1.3	39.2	39.5	△0.3	39.9	△0.7
中学校	12歳	45.2	45.8	△0.6	43.8	1.4	44.1	44.4	△0.3	44.5	△0.4
	13歳	50.8	50.9	△0.1	49.0	1.8	47.9	48.0	△0.1	48.1	△0.2
	14歳	54.9	54.3	0.6	55.3	△0.4	50.2	49.9	0.3	50.8	△0.6
高等学校	15歳	59.1	59.5	△0.4	59.0	0.1	51.0	50.9	0.1	52.4	△1.4
	16歳	60.1	61.0	△0.9	61.5	△1.4	51.5	52.1	△0.6	53.2	△1.7
	17歳	62.1	62.8	△0.7	62.8	△0.7	53.3	53.0	0.3	53.5	△0.2

図2　体重の平均値の推移





3　平均体格　（表3、図3、別表1）

令和6年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長及び体重の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

表3　体格の平均値と男女差

区　　分		身　長　(cm)			体　重　(kg)		
		男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B
幼稚園	5歳	111.0	110.3	0.7	19.0	18.6	0.4
小学校	6歳	117.3	116.0	1.3	21.7	20.6	1.1
	7歳	123.2	122.0	1.2	24.4	23.6	0.8
	8歳	129.5	127.8	1.7	27.7	26.4	1.3
	9歳	133.6	133.9	△0.3	31.0	30.1	0.9
	10歳	140.3	141.3	△1.0	35.8	34.4	1.4
	11歳	146.8	148.2	△1.4	39.6	39.2	0.4
中学校	12歳	154.1	152.7	1.4	45.2	44.1	1.1
	13歳	162.3	155.8	6.5	50.8	47.9	2.9
	14歳	167.1	157.4	9.7	54.9	50.2	4.7
高等学校	15歳	169.4	157.7	11.7	59.1	51.0	8.1
	16歳	170.3	157.5	12.8	60.1	51.5	8.6
	17歳	171.0	158.7	12.3	62.1	53.3	8.8

（1）各年齢間の体格差

① 身長

男子は、12歳と13歳の間が8.2cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.7cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が7.4cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.2cmと最も小さい。

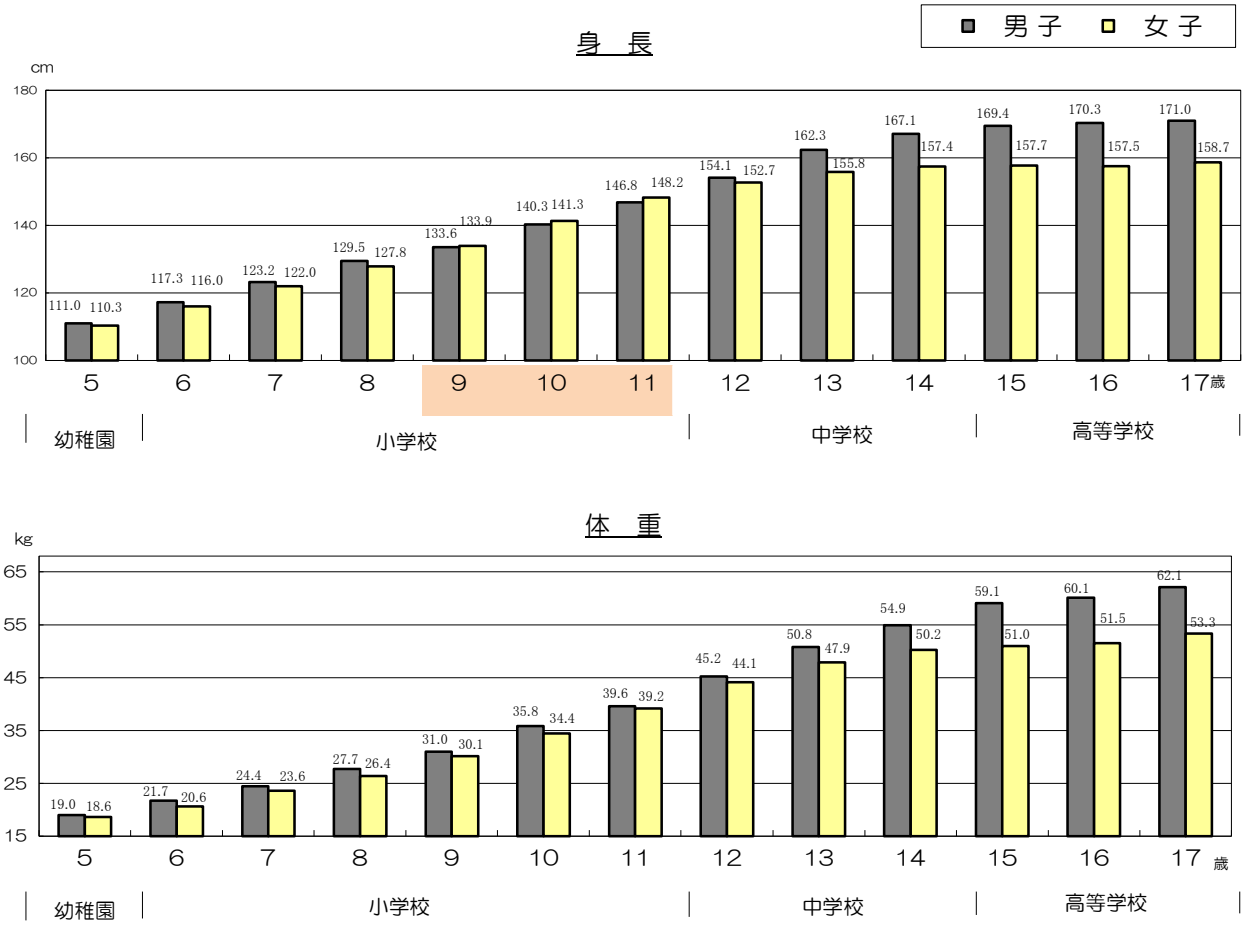
② 体重

男子は、11歳と12歳及び12歳と13歳の間が5.6kgと最も大きく、15歳と16歳の間が1.0kgと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が4.9kgと最も大きく、15歳と16歳の間が0.5kgと最も小さい。

（2）男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では9歳から11歳で、その差の最大は、11歳の1.4cmとなっている。体重は、全ての年齢で男子が女子を上回り、17歳での差は、身長12.3cm、体重8.8kgとなっている。

図３　年齢別平均体格



4　世代間比較　30年前（平成6年度）の体格との比較　（表4、別表2）

子世代（令和6年度）と親の世代（30年前の平成6年度）の体格を比較してみると、男子は、7歳、8歳及び10歳から15歳の身長、8歳、10歳から13歳及び15歳の体重、女子は5歳、10歳から12歳、14歳及び17歳で子世代が親の世代を上回っている。
女子の体重は全て子世代が親の世代を下回っている。

（1）17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.3cm低く、体重が0.7kg軽くなっている。女子は身長が0.4cm高く、体重が0.2kg軽くなっている。

（2）体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は、身長が13歳で2.4cm高く、体重が13歳で1.8kg重くなっている。女子は、身長が16歳で0.9cm低く、体重が16歳で1.7kg軽くなっている。

表4　30年前の体格との比較

区分			身長（cm）			体重（kg）		
			令和6年度 A	平成6年度 B	差 A-B	令和6年度 A	平成6年度 B	差 A-B
男子	幼稚園	5歳	111.0	111.1	△0.1	19.0	19.3	△0.3
	小学校	6歳	117.3	117.3	－	21.7	21.7	－
		7歳	123.2	122.9	0.3	24.4	24.4	－
		8歳	129.5	128.7	0.8	27.7	27.4	0.3
		9歳	133.6	134.1	△0.5	31.0	31.0	－
		10歳	140.3	139.7	0.6	35.8	34.8	1.0
		11歳	146.8	145.4	1.4	39.6	38.3	1.3
	中学校	12歳	154.1	152.3	1.8	45.2	43.8	1.4
		13歳	162.3	159.9	2.4	50.8	49.0	1.8
		14歳	167.1	166.4	0.7	54.9	55.3	△0.4
	高等学校	15歳	169.4	169.0	0.4	59.1	59.0	0.1
		16歳	170.3	170.7	△0.4	60.1	61.5	△1.4
		17歳	171.0	171.3	△0.3	62.1	62.8	△0.7
女子	幼稚園	5歳	110.3	109.9	0.4	18.6	18.8	△0.2
	小学校	6歳	116.0	116.5	△0.5	20.6	21.3	△0.7
		7歳	122.0	122.6	△0.6	23.6	24.0	△0.4
		8歳	127.8	128.1	△0.3	26.4	26.8	△0.4
		9歳	133.9	134.1	△0.2	30.1	30.8	△0.7
		10歳	141.3	140.9	0.4	34.4	35.0	△0.6
		11歳	148.2	147.8	0.4	39.2	39.9	△0.7
	中学校	12歳	152.7	152.5	0.2	44.1	44.5	△0.4
		13歳	155.8	155.9	△0.1	47.9	48.1	△0.2
		14歳	157.4	157.2	0.2	50.2	50.8	△0.6
	高等学校	15歳	157.7	158.1	△0.4	51.0	52.4	△1.4
		16歳	157.5	158.4	△0.9	51.5	53.2	△1.7
		17歳	158.7	158.3	0.4	53.3	53.5	△0.2

5　発育量の世代間比較　30年前との比較　（表5、図4、別表5）

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、子世代（今年度調査の17歳（平成18年度生まれ））と親世代（30年前調査の17歳（昭和51年度生まれ））を比較すると、次のとおりである。

（1）総発育量の比較

今年度17歳（平成18年度生まれ）の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子は0.6cm増、女子は1.6cm増となっている。体重では男子は同値、女子は0.3kg増となっている。

（2）年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳（平成18年度生まれ）の年間発育量をみると、男子は、身長、体重ともに12歳時で最も大きく、女子は、身長は9歳時、体重は11歳時が最も大きい。

一方、30年前の17歳（昭和51年度生まれ）の年間発育量は、男子は身長は11歳時、体重は13歳時が最も大きく、女子は身長は9歳時、体重は11歳時が最も大きい。

表5　年次別、男女別、発育量の比較

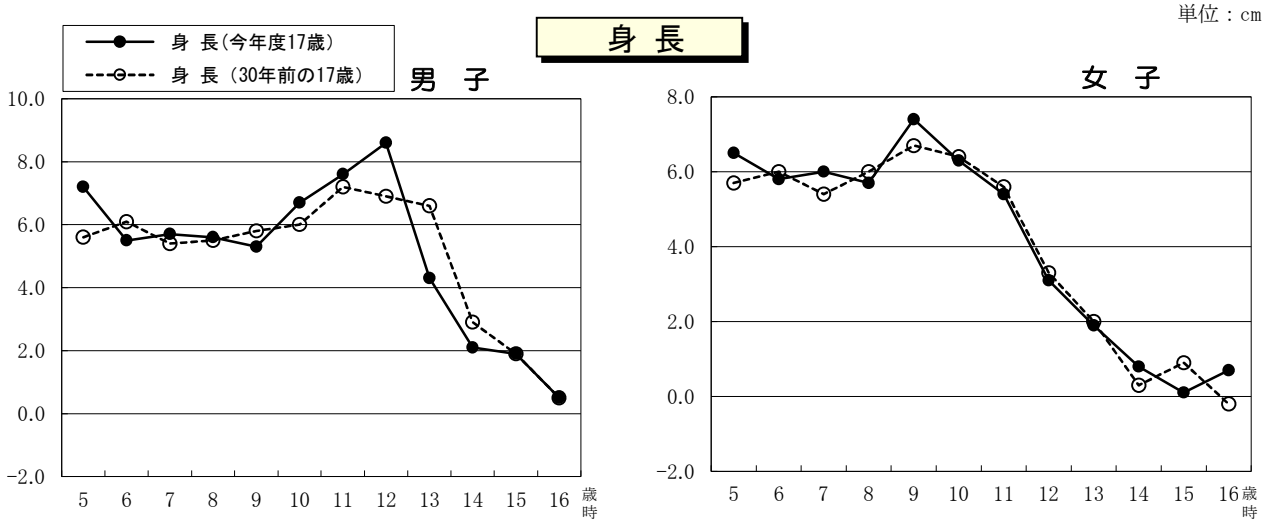
区分		男子				女子			
		5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢
身長 (cm)	昭和 51 年度生まれ	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.2	158.3	48.1	9歳時
	61	110.9	171.6	60.7	12歳時	109.9	158.6	48.7	9歳時
	平成 8	111.2	171.7	60.5	12歳時	110.0	158.4	48.4	9歳時
	13	111.1	171.5	60.4	11歳時	110.0	158.8	48.8	9歳時
	18	110.0	171.0	61.0	12歳時	109.0	158.7	49.7	9歳時
体重 (kg)	昭和 51 年度生まれ	19.0	62.8	43.8	13歳時	18.7	53.5	34.8	11歳時
	61	19.1	64.9	45.8	14歳時	18.8	53.8	35.0	11歳時
	平成 8	19.1	63.5	44.4	12歳時	18.6	52.7	34.1	9、10歳時
	13	19.0	64.5	45.5	14歳時	18.6	53.8	35.2	10歳時
	18	18.3	62.1	43.8	12歳時	18.2	53.3	35.1	11歳時

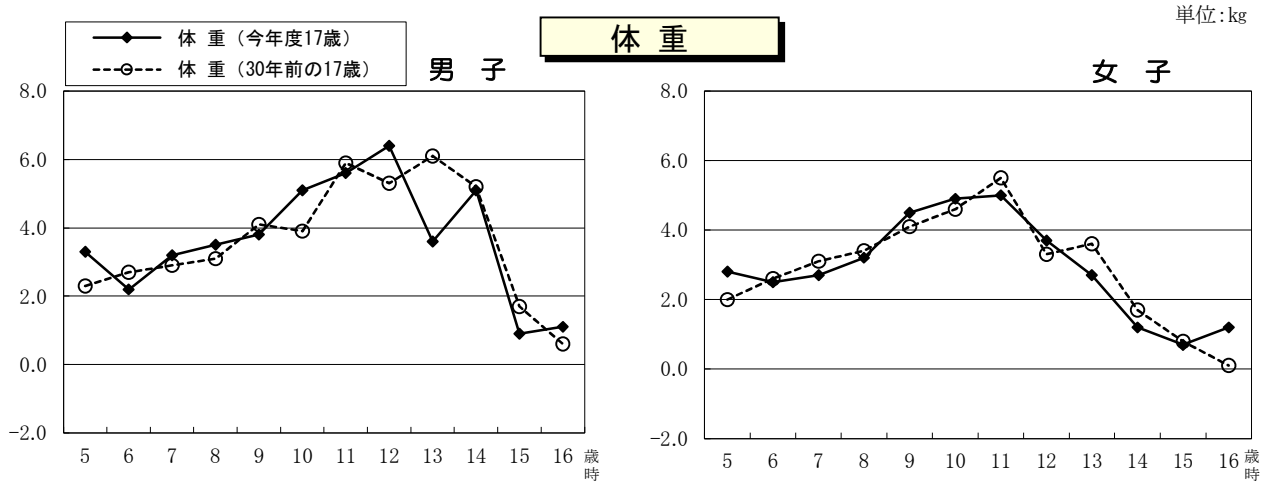
(注)1　総発育量とは、例えば、平成18年度生まれ(令和6年度17歳)の総発育量は、平成18年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

2　年間発育量とは、例えば、平成18年度生まれ(令和6年度17歳)の「5歳時」の年間発育量は、平成25年度調査6歳の者の体格から24年度調査5歳の者の体格を引いた数値である。

3　出生年度については、例えば、「平成18年度生まれ」とは、平成18年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図４　年間発育量の30年前との比較





(注) 年間発育量とは、例えば、平成18年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成25年度調査6歳の者の体格から平成24年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

※令和２年度から令和５年度の調査結果については、新型コロナウイルス感染症の影響により測定時期を異にしたデータが含まれた結果であることから、今回の調査結果と単純比較することはできない。

Ⅱ 健康状態

１ 疾病・異常の被患率等別状況（表6、別表3）

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園、小学校、中学校においては「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も多く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

高等学校においては、「むし歯（う歯）」が最も多く、次いで「鼻・副鼻腔疾病」の順となっている。

表6 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	裸眼視力1.0未満	31.0	裸眼視力1.0未満	37.0	裸眼視力1.0未満	63.0	むし歯（う歯）	36.2
2	むし歯（う歯）	20.0	むし歯（う歯）	32.1	むし歯（う歯）	26.8	鼻・副鼻腔疾患	6.7
3	歯・口腔のその他の疾病・異常	5.0	歯・口腔のその他の疾病・異常	6.7	歯・口腔のその他の疾病・異常	4.6	歯垢の状態	6.7
4	歯列・咬合	2.8	鼻・副鼻腔疾患	5.6	歯垢の状態	4.5	歯肉の状態	5.5
5	ぜん息	1.7	歯列・咬合	4.7	心電図異常	4.4	歯列・咬合	4.7

（注） 1「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

２ 主な疾病・異常等の推移（別表3・別表4）

（1）栄養状態

令和6年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が0%、小学校が1.0%、中学校0.4%、高等学校が0.8%となっており、前年度と比べると、小学校では減少しているが、中学校及び高等学校では増加した。また、幼稚園では前年度と変わらなかった。

（2）鼻・副鼻腔疾患

令和6年度の「鼻・副鼻腔疾患」（蓄のう症、アレルギー性鼻炎（花粉症等）等）の者の割合は、幼稚園が0.8%、小学校が5.6%、中学校が3.6%、高等学校が6.7%となっており、前年度と比べると、幼稚園、小学校及び中学校で減少しているが、高等学校では増加している。

（3）心電図異常（6歳、12歳及び15歳時のみ）

令和6年度の「心電図異常」の割合は、小学校（6歳）で4.3%、中学校（12歳）で4.4%、高等学校（15歳）で2.6%となっており、前年度と比べると、高等学校では減少しているが、小学校及び中学校では増加している。

（4）ぜん息

令和6年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園が1.7%、小学校が1.6%、中学校が1.1%、高等学校が1.1%となっており、前年度と比べると、中学校では減少しているが、幼稚園、小学校及び高等学校では増加している。

（5）むし歯（う歯） （表7、表8、図5）

令和6年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は、幼稚園が20.0%、小学校が32.1%、中学校が26.8%、高等学校が36.2%で、前年度と比べると、小学校、中学校及び高等学校では減少しているが、幼稚園では増加している。

令和6年度の被患率を10年前の平成26年度と比べると、幼稚園で8.1ポイント、小学校で19.8ポイント、中学校で22.8ポイント、高等学校で16.8ポイント低下している。

中学校1年生（12歳）のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数（喪失歯及び処置歯数を含む）は0.5本で、前年度より0.1本減少した。

表7　むし歯（う歯）の者の割合の推移

単位：%

区分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼稚園	計	28.1	23.0	29.4	26.4	30.1	31.7	X	30.9	23.9	19.3	20.0
	処置完了者	11.4	6.8	9.4	7.2	9.0	11.8	X	12.6	9.9	6.8	8.0
	未処置歯のある者	16.8	16.2	20.0	19.2	21.1	19.9	X	18.3	14.1	12.5	12.0
小学校	計	51.9	48.2	49.0	45.3	48.5	42.1	37.4	37.4	33.8	34.2	32.1
	処置完了者	22.0	21.2	21.8	20.5	20.7	19.7	15.3	16.6	14.8	14.4	14.8
	未処置歯のある者	29.9	27.0	27.2	24.9	27.7	22.4	22.1	20.8	18.9	19.8	17.3
中学校	計	49.6	44.9	43.2	41.0	42.0	36.0	33.2	34.3	32.4	28.8	26.8
	処置完了者	26.8	23.6	25.5	23.8	23.6	21.8	19.9	19.3	17.2	16.5	14.8
	未処置歯のある者	22.8	21.2	17.7	17.2	18.4	14.3	13.4	15.0	15.2	12.3	12.1
高等学校	計	53.0	56.0	55.0	48.2	47.2	43.6	44.4	36.6	37.9	39.8	36.2
	処置完了者	29.4	32.8	33.5	32.3	29.4	28.0	28.6	23.2	23.6	24.1	23.7
	未処置歯のある者	23.6	23.2	21.5	15.9	17.8	15.7	15.8	13.4	14.3	15.7	12.5

(注)1　四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。
2　[X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人（5歳は50人）未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

表8　12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

単位：本

区分		平成6年度	平成16年度	平成26年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
計		4.39	2.5	1.3	0.8	0.8	0.6	0.6	0.5
喪失歯数		0.01	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯（う歯）	計	4.38	2.5	1.3	0.8	0.8	0.6	0.6	0.5
	処置歯数	3.20	1.6	0.8	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3
	未処置歯数	1.18	0.9	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3

（6）裸眼視力　（表9、図6）

令和6年度の「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、幼稚園が31.0%、小学校が37.0%、中学校が63.0%となっており、前年度と比較すると、小学校及び中学校では減少しているが、幼稚園で増加している。

また、令和6年度の被患率を10年前の平成26年度と比べると、小学校では7.0ポイント上昇、中学校では4.1ポイント上昇している。

表9　裸眼視力1.0未満の者の割合の推移

単位：%

区分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼稚園	計	X	X	X	12.9	X	X	27.5	X	38.3	27.3	31.0
	1.0未満0.7以上	X	X	X	11.2	X	X	22.8	X	22.4	16.2	22.1
	0.7未満0.3以上	X	X	X	1.7	X	X	4.1	X	14.5	9.4	8.0
	0.3未満	X	X	X	−	X	X	0.5	X	1.4	1.7	0.9
小学校	計	30.0	32.5	33.8	32.2	34.4	36.6	37.1	38.5	39.0	40.2	37.0
	1.0未満0.7以上	9.7	10.4	10.7	9.7	10.8	11.3	11.2	11.6	11.5	11.9	12.5
	0.7未満0.3以上	12.0	13.0	12.6	12.5	13.6	14.4	13.7	15.2	16.0	15.9	14.4
	0.3未満	8.3	9.1	10.6	10.0	10.0	11.0	12.2	11.8	11.4	12.4	10.1
中学校	計	58.9	58.1	60.9	61.6	59.7	59.7	66.7	65.2	69.4	64.2	63.0
	1.0未満0.7以上	10.2	9.9	9.8	8.5	8.8	9.6	9.8	9.9	14.3	8.6	10.9
	0.7未満0.3以上	19.7	16.2	21.6	18.3	19.2	18.2	21.7	21.5	18.0	22.1	21.4
	0.3未満	29.0	31.9	29.4	34.9	31.7	31.9	35.2	33.9	37.2	33.4	30.6
高等学校	計	71.7	65.8	70.0	71.7	70.9	X	X	71.7	79.5	X	−
	1.0未満0.7以上	7.9	7.0	9.2	10.8	7.5	X	X	X	6.4	X	−
	0.7未満0.3以上	13.6	14.2	18.2	19.0	14.0	X	X	X	11.0	X	−
	0.3未満	50.2	44.5	42.7	41.9	49.3	X	X	X	62.1	X	−

(注)1　四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。
2　[X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
3　[−]は計数がない。

図5　むし歯（う歯）の者の割合の推移

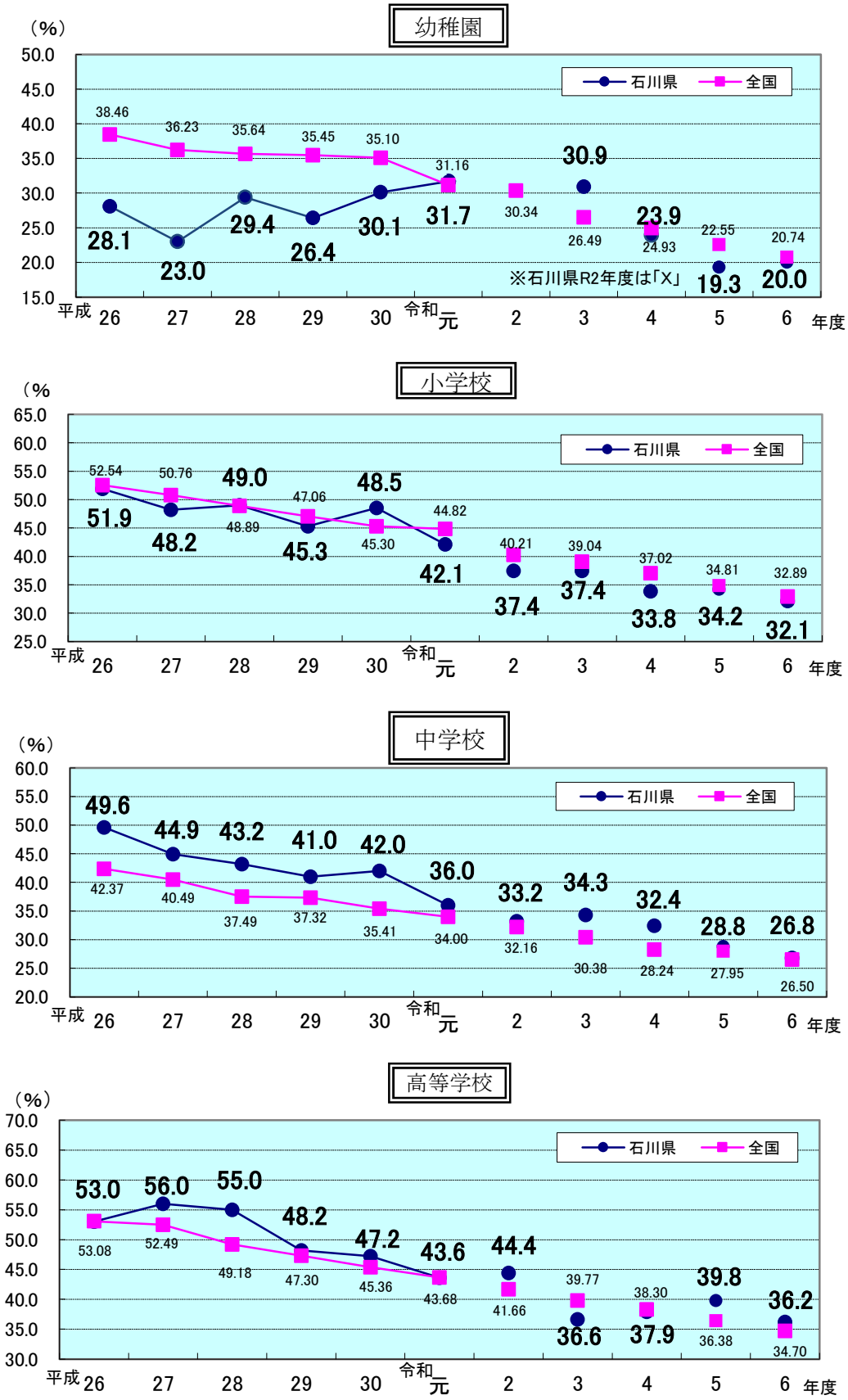
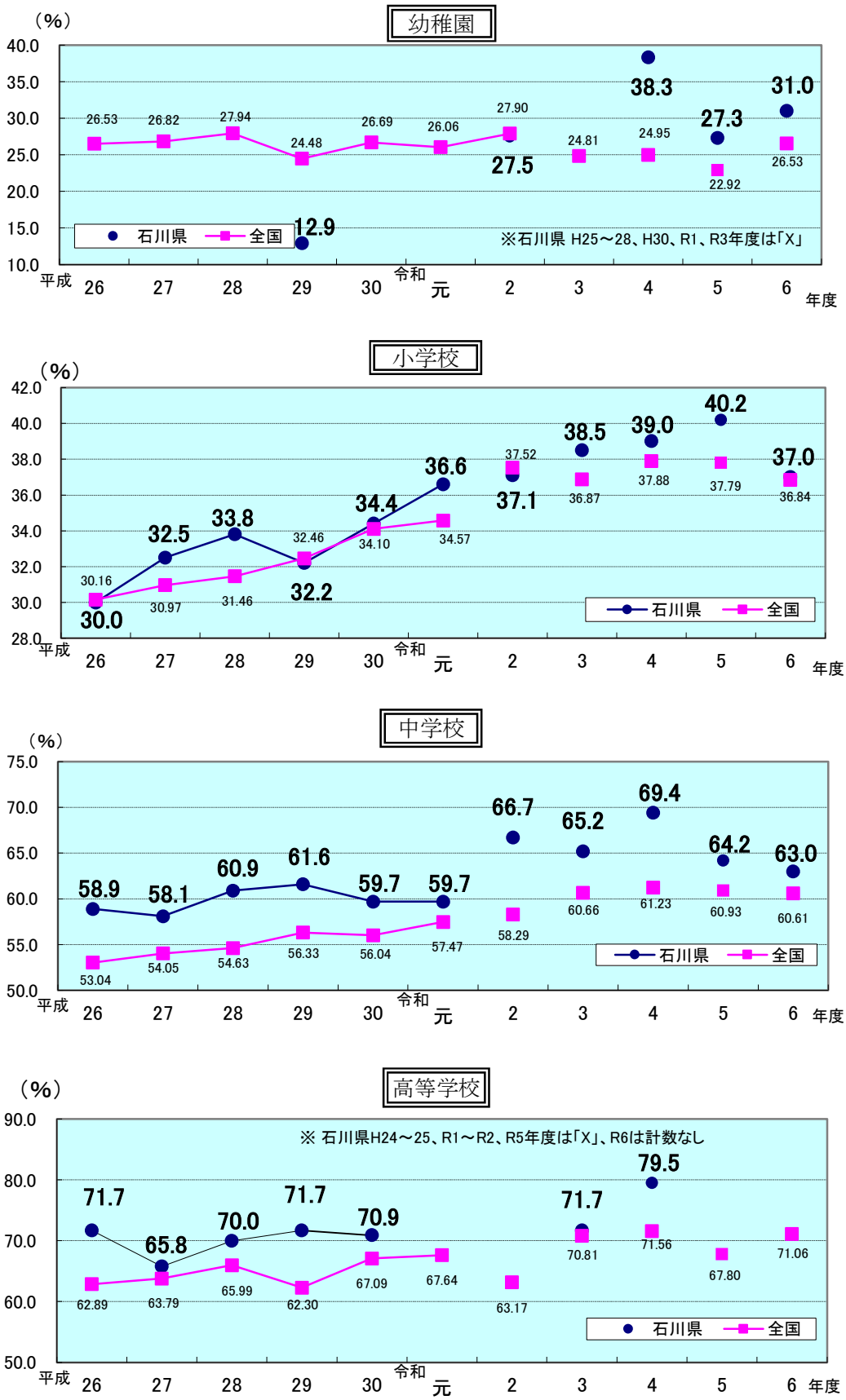


図6　裸眼視力1．0未満の者の推移



※令和２年度から令和５年度の調査結果については、新型コロナウイルス感染症の影響により測定時期を異にしたデータが含まれた結果であることから、今回の調査結果と単純比較することはできない。

Ⅲ　全国値との比較

１　発育状態

(1) 全国平均体格との差　（表10、図7、別表1）

① 身長

男子は、9歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、9歳及び16歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

② 体重

男子は、5歳及び11歳で全国平均値と同値、6歳から8歳、10歳、13歳及び15歳で全国平均値を上回っている。女子は、13歳、14歳及び17歳で全国平均値を上回っている。

表10　身長・体重の全国平均値との比較

区分			身長（cm）			体重（kg）		
			石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B
男子	幼稚園	5歳	111.0	110.6	0.4	19.0	19.0	－
	小学校	6歳	117.3	116.7	0.6	21.7	21.4	0.3
		7歳	123.2	122.6	0.6	24.4	24.2	0.2
		8歳	129.5	128.5	1.0	27.7	27.6	0.1
		9歳	133.6	134.0	△0.4	31.0	31.2	△0.2
		10歳	140.3	139.7	0.6	35.8	35.2	0.6
		11歳	146.8	146.0	0.8	39.6	39.6	－
	中学校	12歳	154.1	154.0	0.1	45.2	45.3	△0.1
		13歳	162.3	161.1	1.2	50.8	50.5	0.3
		14歳	167.1	166.1	1.0	54.9	55.0	△0.1
	高等学校	15歳	169.4	168.6	0.8	59.1	59.0	0.1
		16歳	170.3	169.9	0.4	60.1	60.5	△0.4
		17歳	171.0	170.8	0.2	62.1	62.2	△0.1
女子	幼稚園	5歳	110.3	109.6	0.7	18.6	18.7	△0.1
	小学校	6歳	116.0	115.8	0.2	20.6	21.0	△0.4
		7歳	122.0	121.8	0.2	23.6	23.7	△0.1
		8歳	127.8	127.7	0.1	26.4	26.9	△0.5
		9歳	133.9	134.1	△0.2	30.1	30.5	△0.4
		10歳	141.3	141.1	0.2	34.4	35.0	△0.6
		11歳	148.2	147.8	0.4	39.2	40.1	△0.9
	中学校	12歳	152.7	152.3	0.4	44.1	44.4	△0.3
		13歳	155.8	155.0	0.8	47.9	47.5	0.4
		14歳	157.4	156.4	1.0	50.2	49.6	0.6
	高等学校	15歳	157.7	157.1	0.6	51.0	51.1	△0.1
		16歳	157.5	157.7	△0.2	51.5	52.0	△0.5
		17歳	158.7	158.0	0.7	53.3	52.5	0.8

(2) 総発育量の全国平均値との比較　（表11、別表5）

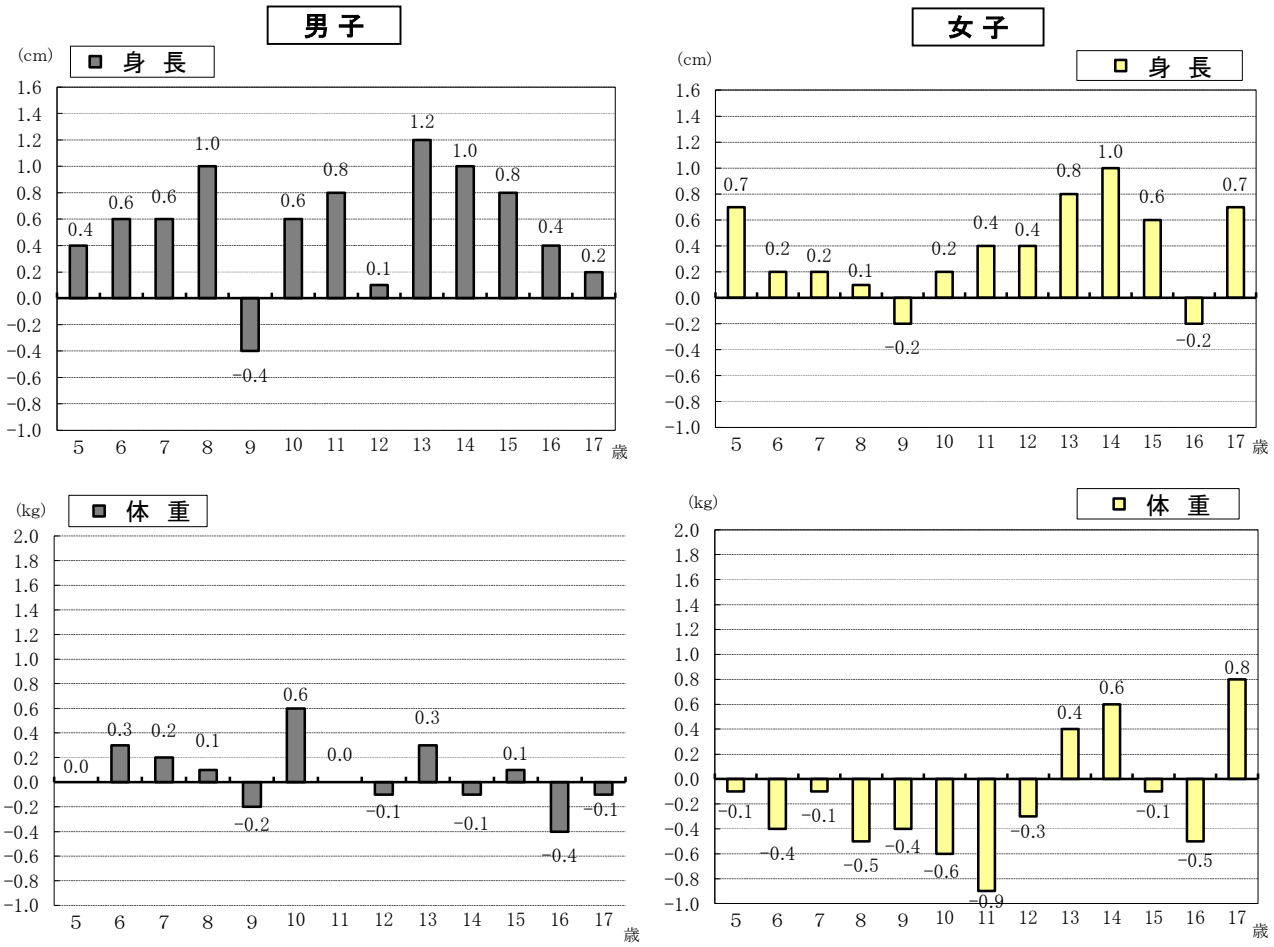
17歳（平成18年度生まれ）の総発育量を比較すると、男子は、身長は0.7cm全国平均値を上回っており、体重は0.5kg上回っている。女子は、身長は1.2cm全国平均値を上回っており、体重は1.1kg上回っている。

表11　総発育量の全国平均値との比較

区分		男子（平成17年度生まれ）			女子（平成17年度生まれ）		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B－A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B－A
身長（cm）	石川県	110.0	171.0	61.0	109.0	158.7	49.7
	全国	110.5	170.8	60.3	109.5	158.0	48.5
体重（kg）	石川県	18.3	62.1	43.8	18.2	53.3	35.1
	全国	18.9	62.2	43.3	18.5	52.5	34.0

図7　年齢別体格の全国平均値との差

（全国平均値 ＝ 0.0）



（3）17歳（高校3年生）の身長の全国平均値との比較　（図8、図9）

17歳の身長を全国平均値と比較すると、石川県は男子、女子ともに全国平均値を上回っている。

（4）肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較　（表12）

令和6年度の肥満傾向児の出現率は、男子では10歳の13.81％、女子では17歳の8.56％が最も高く、反対に男子では5歳の1.68％、女子では6歳の2.84％が最も低い。

また、全国平均値と比較すると、男子は6歳、10歳及び17歳において、女子は8歳及び17歳において上回っている。

表12　肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較

単位：％

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	2.27	4.21	4.45	6.82	8.53	10.62	8.27	10.02	8.51	6.81	8.90	7.75	10.47
	全国	3.04	4.27	6.28	8.70	10.22	10.96	11.55	11.17	10.08	9.07	10.24	8.90	9.16
男	石川県	1.68	5.51	5.53	5.19	9.56	13.81	11.13	11.78	9.91	7.42	10.06	9.03	12.27
	全国	2.94	4.07	6.52	9.51	11.30	12.73	13.00	12.68	11.69	10.58	12.13	10.94	10.63
女	石川県	2.89	2.84	3.29	8.52	7.47	7.19	5.36	8.16	7.00	6.18	7.72	6.40	8.56
	全国	3.14	4.47	6.03	7.86	9.08	9.10	10.02	9.60	8.38	7.49	8.28	6.77	7.64

（注）肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20％以上の者である。
肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重 ×100（％）

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較　（表13）

令和6年度の痩身傾向児の出現率は男子では11歳の6.67%、女子では16歳の6.39%が最も高く、反対に、男子では5歳の0%、女子では6歳の0.25%が最も低い。

また、全国平均値と比べると、男子では6歳、11歳、12歳及び14歳から16歳、女子では5歳、7歳、10歳から12歳及び16歳で上回っている。

表13　痩身傾向児率の出現率の全国平均値との比較

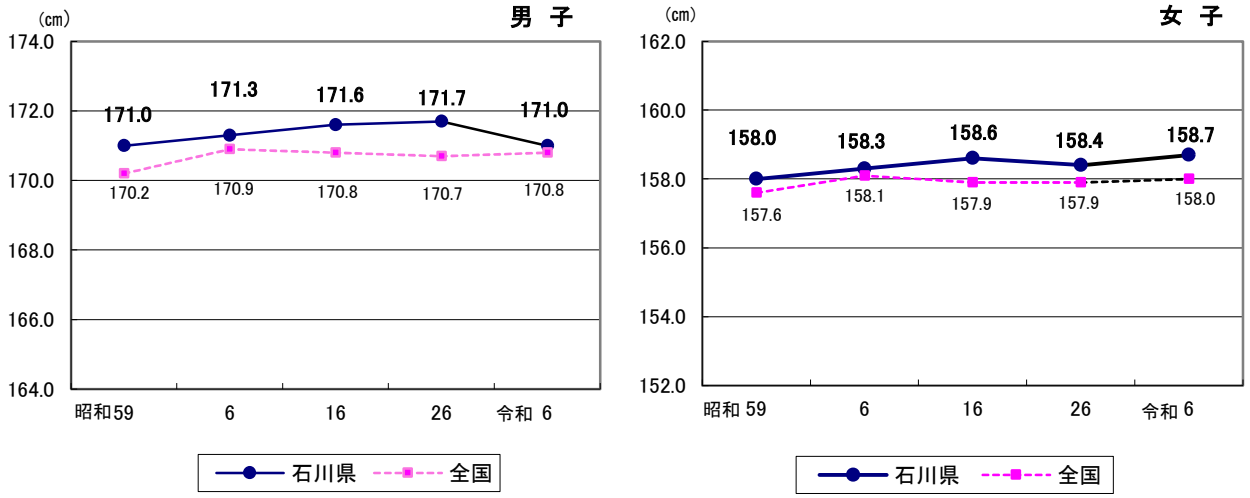
単位：%

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	0.17	0.42	0.42	0.56	1.75	3.30	5.48	4.82	3.16	3.35	5.00	5.10	2.63
	全国	0.26	0.49	0.59	1.17	2.11	2.94	3.17	4.01	3.36	3.33	3.67	3.28	2.89
男	石川県	－	0.58	0.19	0.52	1.35	2.59	6.67	4.70	3.12	3.57	6.49	3.87	3.41
	全国	0.24	0.42	0.62	1.06	1.90	2.90	3.47	3.81	3.17	3.09	3.88	3.67	3.43
女	石川県	0.34	0.25	0.68	0.59	2.15	4.07	4.27	4.95	3.20	3.12	3.46	6.39	1.80
	全国	0.28	0.56	0.57	1.30	2.33	2.98	2.86	4.22	3.56	3.58	3.46	2.87	2.33

（注）痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が－20%以下の者である。
肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重　×100（%）

図8　17歳男女平均値の推移

身長



体重

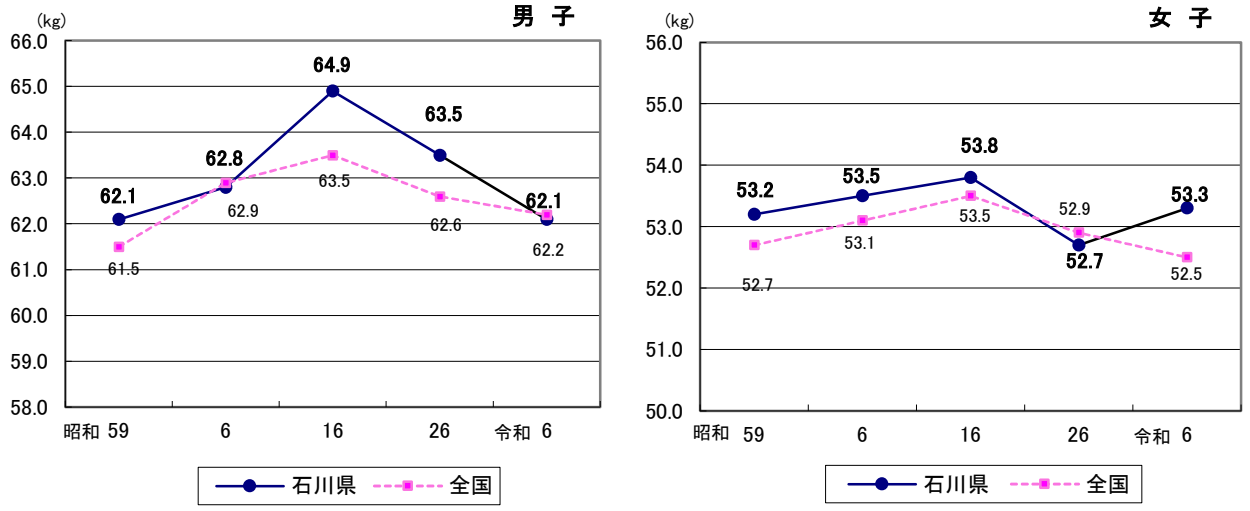
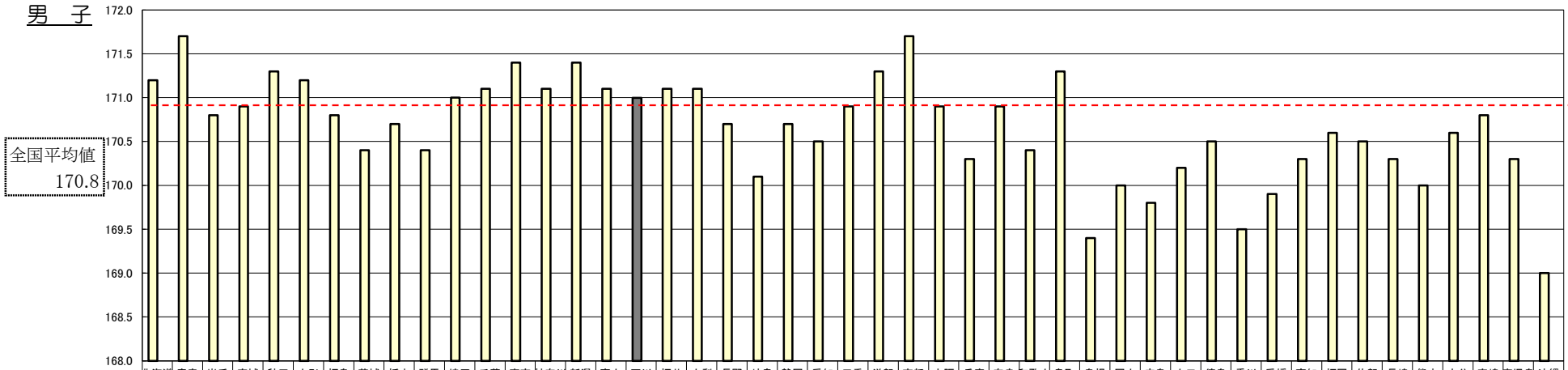


図９　都道府県別17歳の平均身長

単位：cm

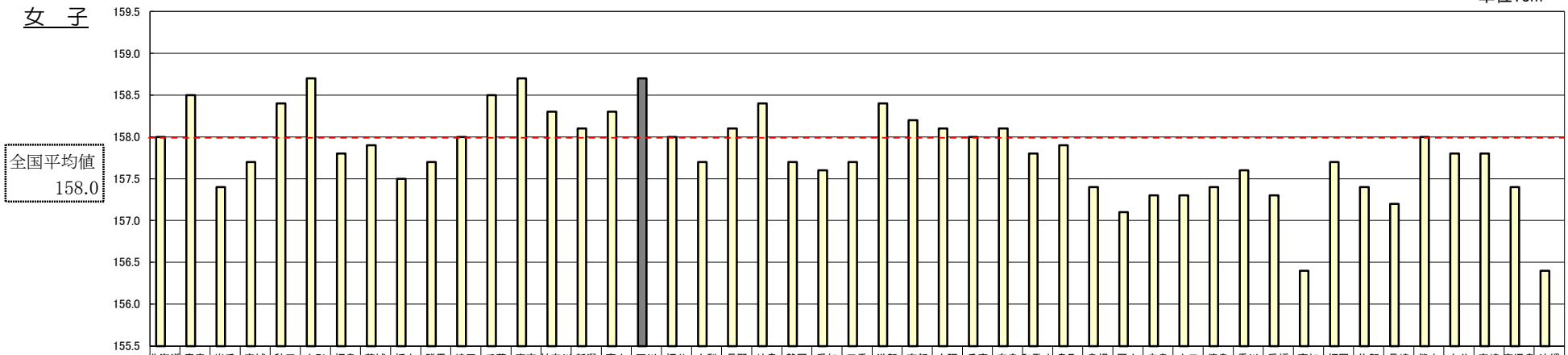
男　子



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
平均身長	171.2	171.7	170.8	170.9	171.3	171.2	170.8	170.4	170.7	170.4	171.0	171.1	171.4	171.1	171.4	171.1	171.0	171.1	171.1	170.7	170.1	170.7	170.5	170.9	171.3	171.7	170.9	170.3	170.9	170.4	171.3	169.4	170.0	169.8	170.2	170.5	169.5	169.9	170.3	170.6	170.5	170.3	170.0	170.6	170.8	170.3	169.0
順　位	8	1	21	17	5	8	21	32	24	32	15	10	3	10	3	10	15	10	10	24	40	24	29	17	5	1	17	35	17	32	5	46	41	44	39	29	45	43	35	27	29	35	41	27	21	35	47

単位：cm

女　子



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
平均身長	158.0	158.5	157.4	157.7	158.4	158.7	157.8	157.9	157.5	157.7	158.0	158.5	158.7	158.3	158.1	158.3	158.7	158.0	157.7	158.1	158.4	157.7	157.6	157.7	158.4	158.2	158.1	158.0	158.1	157.8	157.9	157.4	157.1	157.3	157.3	157.4	157.6	157.3	156.4	157.7	157.4	157.2	158.0	157.8	157.8	157.4	156.4
順　位	16	4	36	27	6	1	23	21	35	27	16	4	1	9	12	9	1	16	27	12	6	27	33	27	6	11	12	16	12	23	21	36	45	41	41	36	33	41	46	27	36	44	16	23	23	36	46

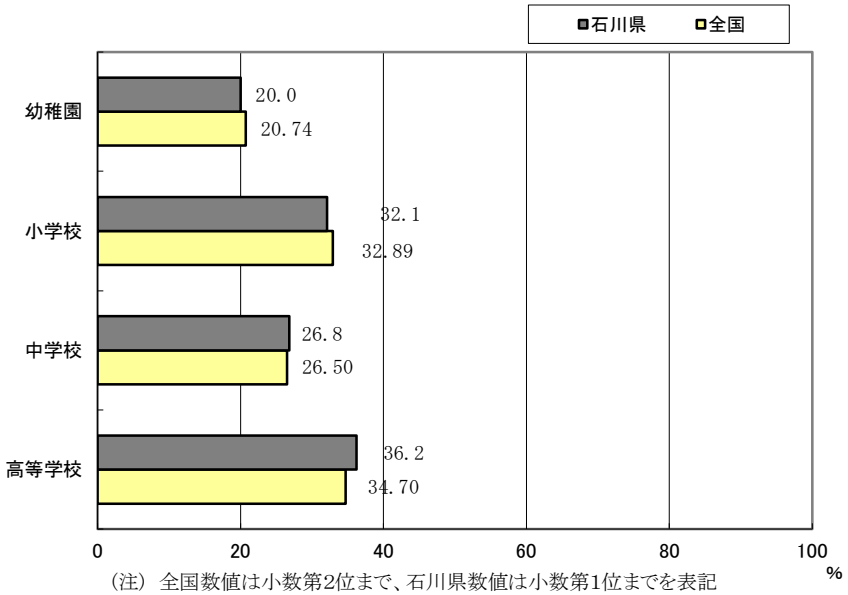
2 健康状態

○ 主な疾病・異常等の全国平均値との比較（図10・11、別表3参照）

(1) むし歯（う歯）の者の割合の全国平均値との比較

むし歯（う歯）の者の割合は、中学校では0.30ポイント、高等学校では1.50ポイント全国平均値を上回っているが、幼稚園では0.74ポイント、小学校では0.79ポイント、全国平均値をそれぞれ下回っている。

図10 むし歯（う歯）の者の割合（全国平均値との比較）

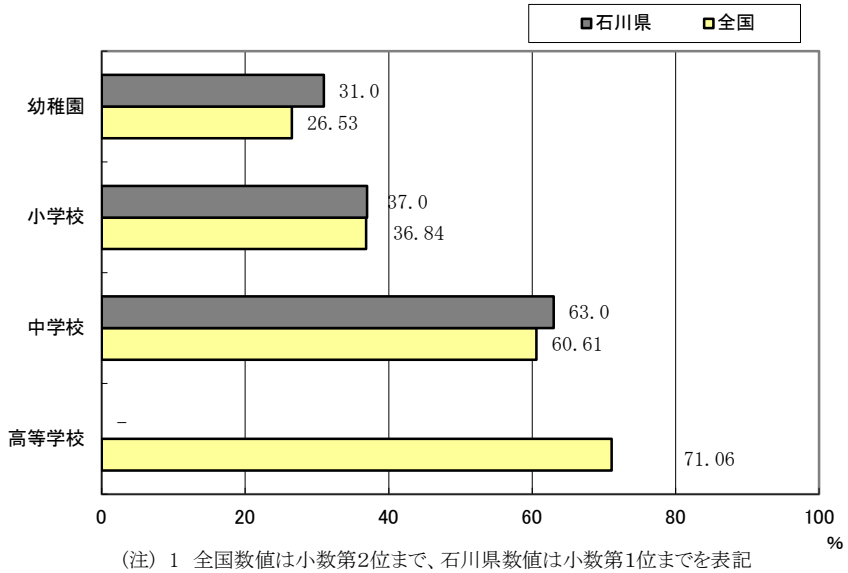


（注） 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記

(2) 裸眼視力1.0未満の者の割合の全国平均値との比較

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園では4.47ポイント、小学校では0.16ポイント、中学校では2.39ポイント全国平均値をそれぞれ上回っている。

図11 裸眼視力1.0未満の者の割合（全国平均値との比較）



（注） 1 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記
2 石川県高等学校は、計数なし